



## あめ すく こま 雨が少なくてどうして困るの

### あめ すく みずぶそく 雨が少なくて水不足になる

あめ にんげん うえ じゅうよう あめ  
雨は、人間がくらすしていく上でなくてはならない、とても重要なものです。雨は、わたしたち人間に水をあたえてくれるからです。わたしたち人間は、水なしでは生きていけません。

ねんかん へいきん あめ ふい ふ あめ ちちゅう  
日本では、1年間に平均して1600ミリメートルほどの雨が降ります。降った雨は、地中にしみこんで地下水となったり、川となって流れて、流域をうるおしたりします。また、ダムなどにためられ、飲み水や工業用水、農業用水、発電などに利用されています。

のうぎょう あめ ふい たいせつ みず すいでん そだ はたけ  
農業には、雨が降ることがとても大切です。水がなければ、水田でイネが育たないし、畑では野菜などの植物が育ちません。ですから、雨が少なくて、米や野菜などの農作物がとれなくなり、食べ物不足してしまいます。

あめ すく みずぶそく たいりょう みず つか あら ひ こう  
雨が少なくて水不足になると、大量の水を使って、ものを洗ったり、冷やしたりする工場では、仕事ができなくなり、生産がストップしてしまいます。

とく みずぶそく すいどう みず で だいどころ あら  
特にひどい水不足になると、水道の水がほとんど出なくなり、台所で洗いものができなくなったり、お風呂に入れなくなります。

### あまみず いけ 雨水をためておくため池

せとないかいえん がんちたい あめ すく ちほう ふる いけ つく  
日本では、瀬戸内海沿岸地帯は雨の少ない地方なので、古くからため池が造られてきました。ため池に水をため、農業用水として利用してきたのです。香川県の満濃池や大阪府の狭山池は、大きなため池として知られています。（監修・田代 脩）

